

西日本初! 本邦2例目の

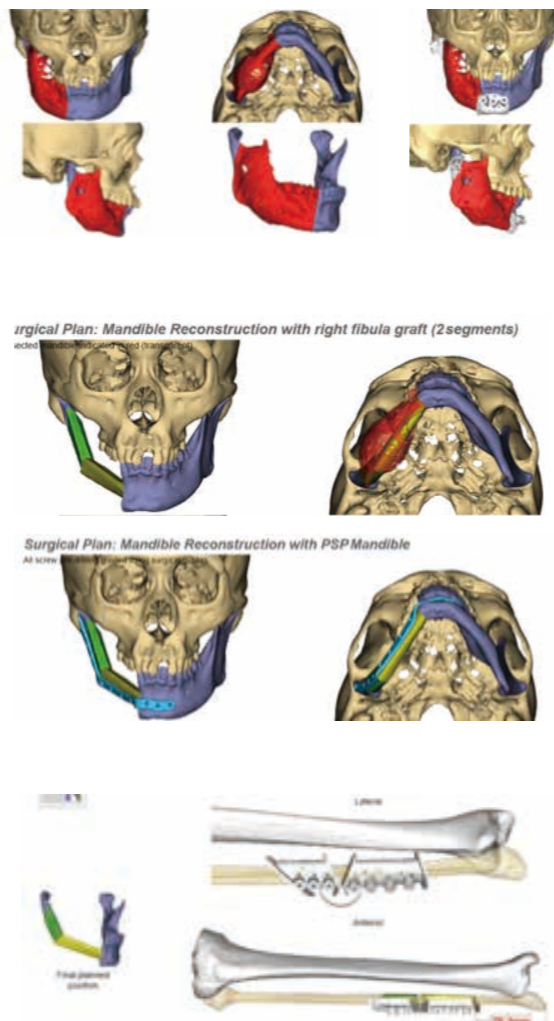
**“最先端デジタルテクノロジーを駆使した精密な顎口腔腫瘍の切除と再建治療”
～歯科口腔外科・形成外科連携による最新治療～**

歯科口腔外科 診療科長 教授 かんの たかひろ
管野 貴浩

顎(あご)や口腔(こうくう)には、口腔がんなどの悪性や良性のさまざまな腫瘍が生じますが、手術による“顔貌(かお)やあご、くちの形態変形や各種機能(食べる、飲み込む、口の開け閉め、話す、噛む等)の障害”が大きな治療の課題でした。近年、顎口腔の再建手術手法が改良され、身体他部位から各種組織(骨や筋肉や皮膚等)を用いた形成外科的な遊離皮弁移植がなされるようになりましたが、依然として3次元的に複雑な“あごやくち”を回復する再建治療は全身の中で最も困難な場所の1つでした。2018年より、当院歯科口腔外科と形成外科(診療科長 林田健志 講師)では、当院に設置された最新鋭の診断シミュレーションソフトや各種手術機器を用いて、多くの腫瘍の患者さんへ最先端治療の連携を深めてきました。

本年4月からは、世界最先端の“デジタルテクノロジーを駆使した”顎口腔腫瘍(口腔癌や顎骨腫瘍)の切除と再建へ、最新システムが本邦の健康保険治療へ認可適用がなされ、7月から本邦での治療へ導入が開始されました。

今回、西日本初!本邦2例目の最新治療として島根県内在住の20歳代の大変大きな顎口腔腫瘍(エナメル上皮腫)の患者さんに、当院歯科口腔外科・形成外科での合同チームによる本システムでの最先端治療を適応することにより、精密正確な腫瘍切除と遊離骨皮弁による患者さんの顔貌と機能の回復に成功を取ることが出来ました。今後県内の多くの顎口腔腫瘍の患者さんに対して、当院歯科口腔外科・形成外科では、最先端のデジタルテクノロジーを駆使した最新治療の提供が可能となります。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

9月15日～10月14日

対象者: **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/20(日) 10:00～16:00	薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー Advance	外来・中央診療棟 2階 クリニカルスキルアップセンター	医療 島根県内の薬剤師	島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター
9/25(金) 15:00～	2020年度 第2回 肝臓病教室	★出雲市立総合医療センター 2階軽運動室	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
9/25(金) 16:00～	2020年度 第2回 家族支援講座	★出雲市立総合医療センター 2階軽運動室	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
10/11(日) 10:00～16:00	薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー Basic	外来・中央診療棟 2階 クリニカルスキルアップセンター	医療 島根県内の薬剤師	島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2020年
9月
Vol.83

NEWS



CONTENTS

- ・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について(8月～9月)
- ・新型コロナウイルス感染拡大に備えECMO研修会を開催しました
- ・西日本初!本邦2例目の“最先端デジタルテクノロジーを駆使した精密な顎口腔腫瘍の切除と再建治療”～歯科口腔外科・形成外科連携による最新治療～
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



島根大学病院の 新型コロナウイルス感染対策について

8月～9月

病院長 いかわ みきお
井川 幹夫

8月初旬に松江市の高校で大規模な新型コロナウイルス感染のクラスターが発生し、また島根県西部で初めて益田市に感染者1名が確認されたことを受けて、当院の感染対策のフェーズを8月12日付けで1から2に引き上げております。フェーズに応じた対応策として、一旦緩和していた個室の面会制限を厳しくさせていただいております。4人部屋については、これまで通り面会制限を継続し、個室への訪問も原則お断りすることにいたしました。Wi-Fi 利用によるオンライン面会で我慢していただくようお願いしております。また、外来受付の検温を非接触型の検温とし、病院玄関では複数の患者さんの検温を同時に行えるモニターを設置して混雑解消を図っています。8月18日には全国の新規感染者は1千人を下回っていますが、特に東京都と大阪府で重症者数、死者数の増加傾向が認められ、感染拡大が続いている沖縄県では医療提供体制が逼迫し、自衛隊から看護師が派遣され、複数の県からも看護師の派遣が計画され、さらに沖縄の医療機関に入院している感染患者を他県で治療する計画も検討され、医療提供体制も次のステージに進みつつあることを実感しています。当院も重症患者の治療を基本とすることに変わりはありませんが、他県の状況も注視しながら感染対策を実施いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大、影響の長期化が予測されている中で、「with コロナ」の社会で生活する上で、PCR 等の検査が果たす役割は大きいと考えます。前号でお伝えしたとおり、当院では新たに COVID-19 検査センター（矢野彰三センター長、荒木 剛副センター長）を設置し、検査技師の増員、医師クラークの配置を行いました。PCR 等の検査目的は、新規感染者の接触者を対象とした検査に加えて、術前スクリーニング、職員の出張、職場環境の管理等、多様化しています。1 週間あたりの検査可能件数は、8月が 150 件、9月は 200 件、抗原定量検査機器を導入する 10月中旬以降は 400 件の見込みで、いずれも唾液をサンプルとすることを標準としています。県内の医療機関からの PCR 等検査を当院が受託し、検査結果を迅速にお知らせする体制が整いました。9月1日から検査を承っておりますので、必要に応じてご依頼いただきますようお願い致します。受託検査の概要を同封しておりますので、ご覧いただければ幸いです。地域の医療機関の皆様には、今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に備え ECMO 研修会を開催しました

総務課企画調査係 主任 いまわか しゅうこ
今若 修子

7月18日、医学部において、島根県下の医療機関に勤務する医師、看護師および臨床工学技士等を対象に「新型コロナウイルス感染症の重症例に対する人工呼吸管理および ECMO 管理について」と題し、研修が実施されました。

ECMO (Extracorporeal membrane oxygenation : 体外式膜型人工肺) は、機能が低下した肺の代わりに、体内に酸素を取り込む働きをします。親指ほどの太い管を太ももの血管から入れて血液を体外に抜き出し、二酸化炭素を拡散・除去し、酸素を加えてから、首付近の血管から体内に戻します。この間、患者は肺を休めることができますが、回復には2週間以上かかることもあり、治療中は 24 時間態勢での管理が必要です。そのため、熟練した医療チームが必要となります。

本研修会は厚生労働省の委託事業として日本 COVID-19 対策 ECMOnet・日本呼吸療法医学会が主体となって、47 都道府県で行われています。

今回は、救急医学講座 岩下 義明 教授が中心となり、ECMOnet に所属する医師・臨床工学技士からなる 10 名の「厚生労働省 ECMO チーム等養成研修事業インストラクター」を招聘し、島根県では初めての本格的な研修会を開催しました。

看護学科棟 N11 講義室をメイン会場に4つの教室で、附属病院および県内病院の医療従事者 25 名が参加し、メーカー3社の協力を得て実機4台を用いた充実のプログラムで、朝9時～夕方5時まで研修が行われました。

午前は、「肺保護換気概論」、「腹臥位療法・実践」、「ECMO 管理概論」の講義があり、基礎知識を深めました。午後からは、グループに分かれ、講義・実習のパターンを繰り返し、「サーキットのチェック」、「ウォータートレーニング」で手技の定着を図り、シミュレータを使用して、シナリオに基づき ECMO 管理の実践を行いました。

参加者は業務中と変わらぬ真剣な面持ちで、シミュレータに気管挿入したり、チームで声を掛け合いながら ECMO の操作法と管理の仕方を習得しました。

新型コロナの重症患者さんが多く入院された場合、多職種で対応する必要があります。シミュレーションや ECMO 管理の全体が把握できていれば、同治療を有効かつ安全に実施可能です。今回はどの職種の参加者にとっても大変有意義な研修会となりました。



講義の様子 (ECMO 緊急停止時の対応)



ウォータードリル



インストラクターからのシナリオ説明



気管挿入の様子



実機を用いたシミュレーション



ECMO 操作の様子



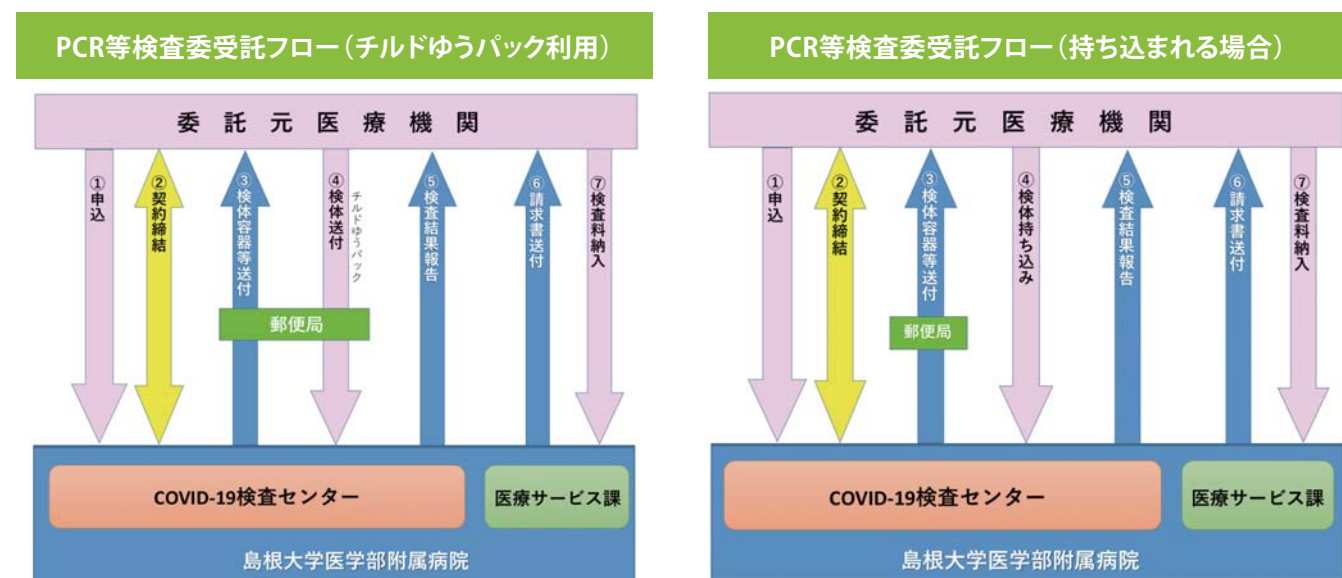
お知らせ

新型コロナウイルスPCR等検査受託について

島根大学医学部附属病院

当院COVID-19検査センターでは、新型コロナウイルス感染症の蔓延・長期化に伴い、「withコロナ」の社会生活に役立てるため、県内医療機関からのCOVID-19 PCR等検査の受託に関する業務を行っています。

9月1日からは県内医療機関からの委託に基づき、無症状者を対象とする行政外検査に加えて、保険診療としてのCOVID-19 PCR検査(唾液検体)を行っており、概要は次のとおりです。



- お申し込みは、下記 COVID-19 検査センターへメールでお願い致します。
- 県内医療機関からのご依頼に基づき、委受託検査契約を締結します。
- 検体採取及び梱包に必要な容器を、当院からゆうパック(元払)にて送付します。
- 検体は、当院検査部 COVID-19 検査センターあてに、チルドゆうパックで送付または直接当院に持ち込むことができます。詳しい送付方法は、契約後お送りする「PCR 等検査の委託受託について」をご参照ください。
- 届いた検体を検査し、メールにて検査結果を通知致します。
- 受託検査料は、1検体あたり13,567円(税込) + 送料実費です。実施した検査1月分を取りまとめ、翌月請求致します。

詳しくは、当院HPをご参照ください。

当センターの受託検査を是非ご利用ください。

問合せ先 **COVID-19検査センター** TEL:080-7539-8296
 メールアドレス: PCRcenter@med.shimane-u.ac.jp



ご報告

島根県がん生殖医療ネットワークの取り組みを開始します

先端がん治療センター	教授	たむら けんじ 田村 研治
産科婦人科	講師	おりで あき 折出 亜希
小児科	教授	たけたに たけし 竹谷 健

これまでのがん医療は、がんそのものに対する治療のみが重視されて、日常生活における多くの要素を犠牲にしても治療を優先させる傾向にありました。しかし、がんの治療成績が向上したために、がん患者さん本人あるいはご家族が治療中や治療後においても充実した社会生活を送り、より豊かな人生を追求することが可能となりましたが、小児、思春期・若年(AYA)のがん患者さんにおける妊孕性の確保が課題となっています。

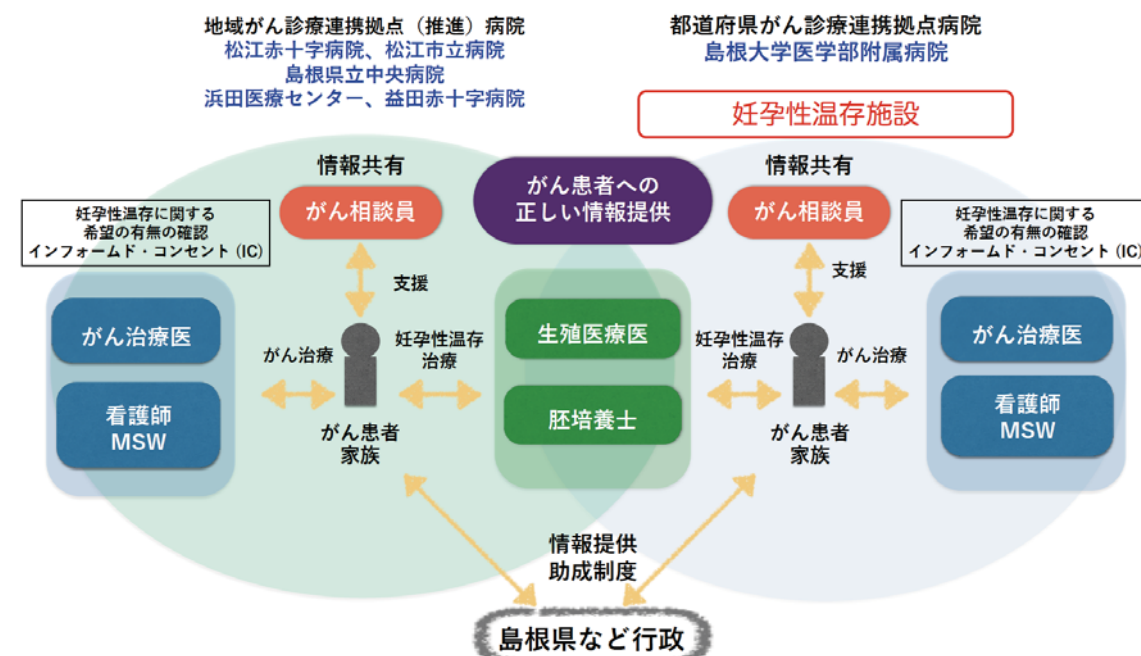
がんの治療によっては、さまざまな原因で生殖機能が低下して妊孕性が喪失することが知られています。また、がん患者さん自身も自分の子どもを諦めることも少なくありませんでした。しかし、近年の妊孕性温存治療の発展(精子保存、卵子保存、卵巣保存、生殖機能を維持する治療法の選択など)により、がん患者さんが治療後だけでなく治療中でもご自身のお子さんを授かることが可能となりつつあります。

島根県では妊孕性温存施設が島根大学医学部附属病院だけであることから、島根県におけるがん・生殖医療に関する診療・研究・啓発および、その発展向上を通じて小児、思春期・若年(AYA)のがん患者さんの妊孕性維持を図る目的から、島根県の地域がん診療連携拠点(推進)病院である松江赤十字病院、松江市立病院、島根県立中央病院、浜田医療センター、益田赤十字病院の5つの病院と連携して、島根県がん生殖医療ネットワークの構築を計画しております。

人生の大きな喜びの一つを与えてくれる妊孕性温存という大切な手段の存在を、より多くのがん患者さんがしっかりと認識し、希望に応じて享受することができる社会を形成していくことに尽力して参りますので、ご協力ご支援のほどよろしくお願い致します。

島根県がん生殖医療ネットワーク

目的: 島根県におけるがん・生殖医療に関する診療・研究・啓発及び、その発展向上を通じて若年がん患者の妊孕性維持を図る





お知らせ



PCR検査装置ミュータスワコーの紹介

検査部 部長 准教授 やの しょうぞう 矢野 彰三

新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）の診断のため、8月より全自動PCR装置ミュータスワコー g1（富士フィルム和光純薬）（図1）が導入されました。これまでは、検体からウイルスRNAの抽出、逆転写反応（RT）および遺伝子増幅反応（PCR）を2つの別の機器で行っていましたが、本装置を用いることにより、人手をかけずに検査時間の大幅な短縮が可能になりました。これにより、現在試薬がやや品薄ですが、多数のPCR検査依頼に対応できることとなります。厚生労働省は、PCR等の検査体制の更なる強化について（図2）、各都道府県に対して通知をしており、当院も着実に対応しています。

これまで、当院では、全身麻酔手術前の患者さんや感染流行地域からの帰県職員等を対象としたPCR検査を行ってきました。院内感染予防目的で、妊婦についてもPCR検査の対象となります。今後、当院は、新たに設置されたCOVID-19検査センターを中心に院外医療機関の受託検査を開始します。ミュータスワコー g1のこれからの活躍が期待されます。

図1. 当院に導入されたミュータスワコー g1



図2. PCR等の検査体制の更なる強化について（8月7日厚生労働省通知資料より作成）

PCR等の検査体制の戦略的強化について

より迅速に
よりスムーズに

必要に応じて
より広く

- 1) 検査能力の増強
- 2) 検査のアクセス向上
- 3) 地域の感染状況を踏まえた幅広い検査
- 4) 院内・施設内感染対策の強化
- 5) 新技術の積極的な導入



ご報告



治療食（特別食加算）について

栄養治療室 栄養士長 ひらい じゅんこ 平井 順子

入院中の食事（病院食）は、医療の一環として、それぞれの患者さんの年齢、性別、体位、身体活動レベル、病態、疾患などに応じて必要な栄養量が確保できるよう医師の指示により決められており、疾患や治療内容によっては、治療食の提供が必要です。治療食は、エネルギー制限、たんぱく質制限、脂質制限、塩分制限、繊維制限など患者さんの疾患に応じた様々な種類があります。当院では、疾患別では約35種類、栄養量や形態など細かく分類すると、約150種類の治療食があります。治療食の中でも加算の対象となる特別食があり、この特別食は、「入院時食事療養（Ⅰ）及び入院時生活療養の食事の提供たる療養の基準等」に示されており、入院時食事療養（Ⅰ）または入院時生活療養（Ⅰ）の届け出を行った保険医療機関において、患者の病状等に対応して、医師の発行する食事せんに基づき特別食が提供された場合に、1食単位で1日3食を限度として算定します。この加算の対象となる特別食は、疾患治療の直接手段として、医師の指示のもとに提供される患者さんの年齢、病状等に対応した栄養量及び内容を有する治療食、無菌食及び特別な場合の検査食をいいます。

食事は楽しみの一つでもあります。疾患に適した適切な食事療法を継続することは、大切な治療の手段でもあります。患者さんに満足いただけるよう、また、治療に貢献できるよう食事提供を行っております。

入院時食事療養における特別食加算の対象食種

腎臓病食	心臓病食、妊娠高血圧症候群等に対して減塩療法を行う場合は腎臓病食として取り扱うことができる。心臓病食等の減塩食については、食塩相当量6g/日未満の減塩食をいう。妊娠高血圧症候群の減塩食の場合は、日本高血圧学会、日本妊娠高血圧学会等の基準に準拠していること。
肝臓病食	肝臓病食、肝炎食、肝硬変食、閉塞性黄疸食（胆石症及び胆嚢炎による閉塞性黄疸の場合を含む。）等。
糖尿病食	糖尿病の治療食。
胃潰瘍食	十二指腸潰瘍、侵襲の大きな消化管手術の術後において胃潰瘍食に準ずる食事を提供する場合を含む。クローン病、潰瘍性大腸炎等により腸管の機能が低下している患者に対する低残渣食を含む。
貧血食	血中ヘモグロビン濃度が10g/dL以下であり、その原因が鉄分の欠乏に由来する患者を対象とする。
膵臓病食	膵臓病食であって、脂肪を制限し、良質のたんぱく質と炭水化物を中心としたもの。
脂質異常症食	高度肥満症（肥満度が+70%以上またはBMIが35以上）に対して食事療法を行う場合は、脂質異常症食に準じて取り扱うことができる。対象患者は、空腹時定常状態におけるLDL-コレステロール値が140mg/dL以上、HDL-コレステロール値が40mg/dL未満、中性脂肪が150mg/dL以上のいずれかであるもの。
痛風食	尿酸塩の豊富な材料となるプリン体を制限したもの。
てんかん食	難治性てんかん（外傷性のものを含む。）の患者に対し、グルコースに代わりケトン体を熱量源として供給することを目的に炭水化物量の制限及び脂質量の増加が厳格に行われた治療食のこと。ただし、グルコーストランスポーター1欠損症又はミトコンドリア脳筋症の患者に対し、治療食として当該食事を提供した場合を含む。
先天性代謝異常症の治療食	フェニルケトン尿症食、楓糖尿症食、ホモシスチン尿症、ガラクトース血症食
治療乳	乳児栄養障害（離乳を終わらない者の栄養障害）に対する直接調乳する治療乳のこと。
無菌食	無菌治療室管理加算を算定している患者。
特別な場合の検査食	大腸X線検査・大腸内視鏡検査のために特に残渣の少ない調理済食品を使用した場合を含む。

引用：令和2年3月5日保医発0305第14号 入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養の実施上の留意事項について（通知）





ご報告

島大病院ニュース 2020年9月

コロナ禍に対する医療提供体制の整備について

事務部長 やすとも まさお
安友 政男

島根大学病院では、新型コロナウイルス感染症に対する「重症管理指定医療機関」、並びに県内唯一の「特定機能病院」の役割を果たすため、文部科学省や島根県からの補助金も活用させていただき、コロナ禍に対する医療提供体制・機能の向上に努めています。

島根県内のPCR検査体制の拡充を図るため、7月に「COVID-19検査センター」を設置しました。臨床検査技師の増員とともに、PCR検査装置(図1)3台の増台を計画し、既に2台の整備が完了し、週150件程度の検査が可能となっており、さらに10月以降は週400件程度の検査が可能となる予定です。これにより、新型コロナウイルス感染症が発生する前と同様に、当院での高度医療が実施できる体制が構築出来るとともに、島根県内の行政検査実施可能数の充実や、県内の医療機関等での診療継続の一助になるものと考えています。また、PCR検査装置のほか、抗原定量検査装置も整備することとしており、こちらは10月頃には導入予定です。

感染患者さんに対する医療機能の強化としては、本年秋頃までに人工呼吸器(図2)19台の増台を計画し、今後の患者数増加に対応できるように整備することとしています。さらに、重篤化した患者さんに対しては、新型コロナウイルス重症患者の治療で「最後の砦」といわれるECMO(体外式膜型人工肺)(図3)5台の増台を計画し、7月末までに2台、8月に2台、10月に1台を整備する予定です。ECMOに関しては、専門スタッフの不足も叫ばれていることから、7月18日に当院にて島根県内の専門スタッフを養成する研修を開催しました。県内4病院から医師や看護師、臨床工学技士ら25名にご参加頂き、救急医学講座 岩下教授指導の下、当院が保有する4台のECMOを使用し、基礎やトラブル対処法などを学んで頂きました。

これら医療機器整備のほか、各病棟の談話室等へ無線LAN(Wi-Fi)を新設しました。スマートフォン等による「オンライン面会」として、お近くにお住いのご家族はもとより、遠方のご家族との面会が可能となり、入院患者さんよりご好評をいただいております。

これからも県民の皆様に対し適切な医療を提供するため、島根県並びに県内の医療機関等と協力しながら、引き続き、安全、安心な医療提供体制を構築し、医療機能の強化を図っていきます。



図1 全自動遺伝子解析装置



図2 人工呼吸器



図3 ECMO(体外式膜型人工肺)



ご報告

島大病院ニュース 2020年9月



☆うちわ作り(押花)の様子

☆七夕会の様子

☆スイカ割りの様子

出雲キャンパス学童保育『キッズクラブ太陽』 いよいよ夏休み! イベント満載です!

ワークライフバランス支援室 室長 たなか まなみ
田中 真美

うっとうしい梅雨もようやく明け、みんなが大好きな「暑い! 熱い!」夏休みがやってきました。今年の夏休みは4月、5月の各小学校の臨時休校に伴い、期間は各小学校で異なります。そのような中でも子供たちは暑さにも負けずスイカ割りや、七夕会を楽しみ、元気に夏休みを過ごしています! また、夏休み期間中のみお預かりしている子供たちも加わりいっそう賑やかとなっています。

《夏休みカレンダー》

		7/22 (水) 終業式 (塩冶)	7/23 (木) 海の日	7/24 (金) スポーツの日	7/25 (土)
7/27 (月)	7/28 (火)	7/29 (水) 終業式 (大津・四路)	7/30 (木)	7/31 (金) 終業式 (神戸川・今市)	8/1 (土)
8/3 (月)	8/4 (火) 運動会練習	8/5 (水) うちわ製作 (押花) 教室	8/6 (木) 七夕会	8/7 (金) 英語イベント	8/8 (土)
8/10 (月) 山の日	8/11 (火) 科学館	8/12 (水) かき氷	8/13 (木) お出かけ	8/14 (金) スイカ割り	8/15 (土)
8/17 (月)	8/18 (火) 運動会	8/19 (水) あめ細工教室	8/20 (木) 2学期も 頑張ろう会 (ビンゴ大会)	8/21 (金)	8/22 (土)





ご報告

PET/CT検査の運用開始 ～9月稼働開始～

放射線部 部長 教授 きたがき はじめ
北垣 一

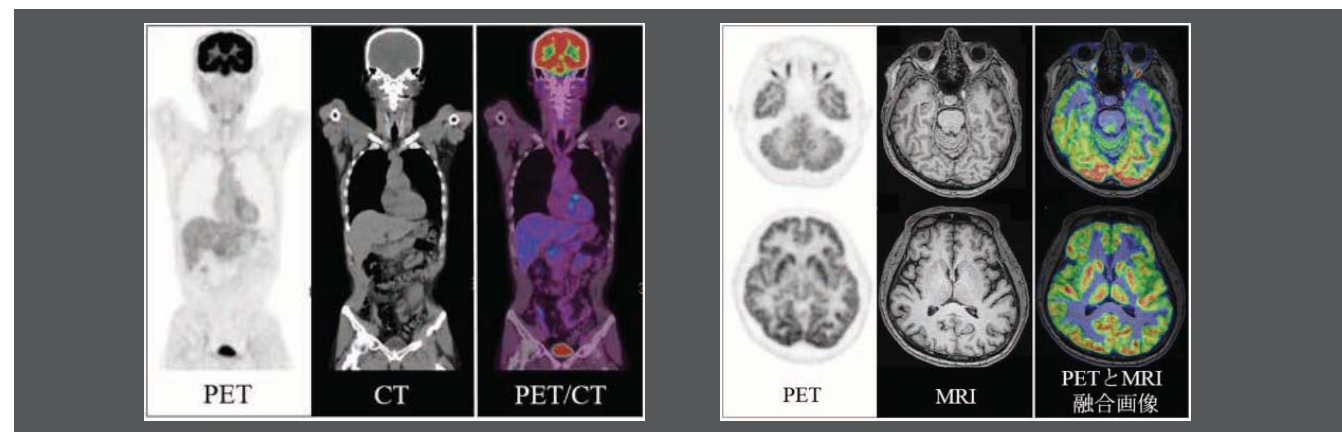
FDG-PET/CT (PET) 検査は悪性腫瘍（早期胃がんを除く）の診断において病期、再発および転移診断に極めて有用な検査で保険診療が適用されています。島根大学医学部附属病院は、最先端機器である半導体 PET/CT 装置を導入設置し、8月中旬より試運転を開始、9月から本格的に稼働します。半導体 PET/CT 装置は高いパフォーマンスを有し、最先端のため国内でも導入台数はわずかです。通常の画像診断に加えて、臨床研究においても能力を発揮できます。



当院が導入した半導体PET/CT装置（フィリップス社製 Vereos）

● 2倍超の感度、空間分解能、定量性向上が実現

デジタル半導体検出器では直接デジタル信号に変換しますので、画像劣化のない高精細画像が取得できます。同時に検査時間も短縮され、患者さんにとっては優しい検査です。より多くの患者さんの診療に役立つようにスタッフ一同で入念に準備しています。今後は、他院からの検査依頼もお受けする予定にしています。ご利用、ご依頼のほど宜しくお願いいたします。



当院で撮像した画像



ご報告

大動脈弁狭窄症のガイドラインが改定になりました —TAVI(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)開始後2年のご報告—

総合ハートセンター 准教授 えんどう あきひろ
遠藤 昭博

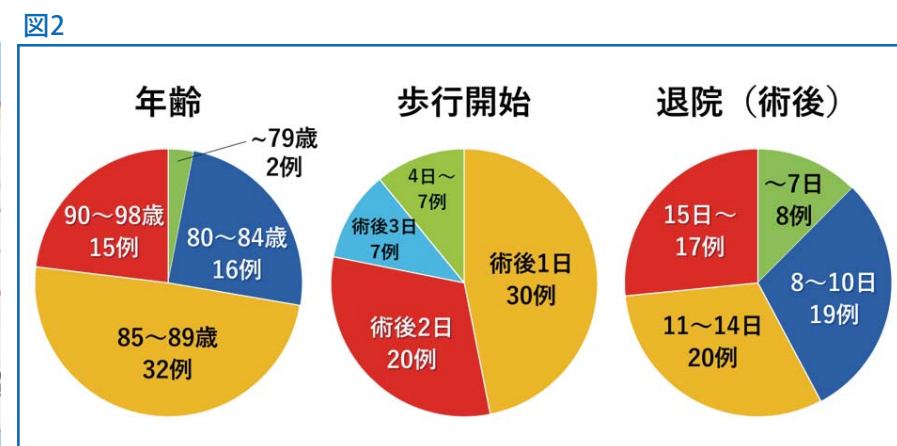
2018年4月17日に島根県内初となるTAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation) を開始して以来、2年余りが経過しました。おかげさまで島根県内全体から幅広く多くの症例をご紹介いただき(図1)、これまでに65例の治療を行うことが出来ました(図2)。全例で生体弁の適切な位置への留置に成功し、開胸手術への移行は1例もなく、30日死亡率0%を継続しております。先日98歳でTAVIを受けられた方が治療後1年の経過観察のため県西部から来院され、「99歳になりましたけどお陰様でまだ畑に出ています」と元気な姿を見せていただき大変嬉しく思いました。これからも少しでも県民の皆様の「元気で長生き」にお役に立てばと思っております。

今年の春、大動脈弁狭窄症のガイドラインが改定になりました。大動脈弁狭窄症は早期発見および適切な時期の治療介入がその後の予後に大きく影響します。従来は息切れなどの心不全症状がある症例のみが治療対象でしたが、今回の改定から心機能が低下したり、狭窄度が重症の症例は無症状であっても手術介入が推奨されるようになりました。「症状が無いから」と放置してはいけなく、となったわけです。そしてその治療法もTAVIの進歩・普及が考慮され80歳以上はTAVI、75歳未満は外科的弁置換術を優先的に考慮するとされています。聴診で収縮期雑音を聴取されましたら、まずは一度、重症度評価のため当院にご紹介いただけますと幸いです。

今後もハートチーム一同、島根県の皆様に高度な先進医療を安全に提供できるよう精進して参りますので、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ホットライン TEL:070-5672-8109

問合せ先 循環器内科(医局) TEL:0853-20-2206





ご報告

栄養サポートセンターの活動について

栄養サポートセンター センター長 准教授 やの しょうぞう 矢野 彰三

栄養サポートセンターでは、平素より栄養サポートチーム (NST) 活動を行い、多職種でのカンファレンス・回診にて依頼患者さんの栄養評価と栄養改善に向けた取り組みを実施しているところです。当センターでは、出雲市内の医療職員、特に新人の看護師や医療従事者を対象に、「出雲 NST 研修会」や「栄養セミナー」を開催し、栄養の重要性について啓発するとともに、出雲圏域の NST レベルアップに貢献しています。また、今年度より、当院は日本病態栄養学会の研修指定病院として認定されました (図1)。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研修会とセミナーをオンラインで開催することにいたしました。8月9日に「令和2年度 出雲 NST on-line 研修会 ～コロナに負けるな!～」を開催し、発表者4人を含め35人の方に参加していただきました (図2)。今後、「On-line 栄養セミナー」の開催も予定しており (図3)、オンデマンドの利用を可能として、職員・学生に加え、県内の NST 専門療法士資格獲得を目指す方にご活用いただきたいと考えております。

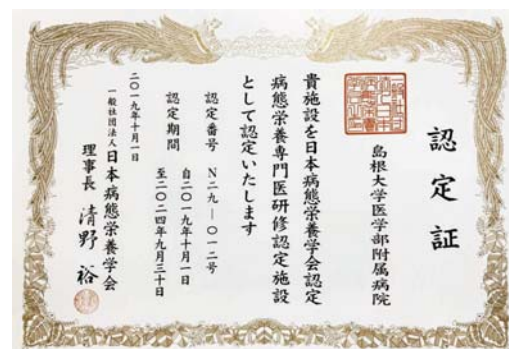


図1. 日本病態栄養学会研修指定病院認定証



図2. 令和2年度 出雲NST on-line研修会における Galaxy 会場の様子

2020年度 栄養セミナー(学外向)

栄養管理に必要な栄養評価、経腸栄養、点滴などについて学びます。みなさまのご参加をお待ちしています。

場所: みらい棟4Fギャラキーン
講師: 矢野 彰三先生 (栄養サポートセンター長)

日程	時間	内容
9月2日	16:30~17:30	栄養障害例の抽出・早期対応
9月2日	17:30~18:30	栄養療法に関する問題点・リスクの抽出
9月30日	17:30~18:30	栄養療法に関する合併症の予防・発症時の対応
11月4日	16:30~17:30	経腸栄養・経口栄養のプランニングとモニタリング
11月4日	17:30~18:30	栄養薬剤・栄養剤・食品の選択・適正使用法の指導
12月2日	16:30~17:30	経静脈栄養のプランニングとモニタリング
12月2日	17:30~18:30	経静脈栄養剤の側管投与方法・薬剤配合変化の指摘
1月6日	16:30~17:30	栄養管理についての患者・家族への説明・指導
2月3日	16:30~17:30	在宅栄養・院外施設での栄養管理法の指導
オンデマンド		経静脈輸液適正調剤法の習得
オンデマンド		経腸栄養剤の衛生管理・適正調剤法の指導、簡易懸濁法の実施と有用性の理解

図3. 2020年度 On-line 栄養セミナーのご案内



ご報告



クラウドファンディングによる研究費獲得について

Acute Care Surgery講座 教授 わたなべ ひろあき 渡部 広明
高度外傷センター センター長

高度外傷センターでは、重症多発外傷患者の治療と研究を行っていますが、研究のための資金確保は年々難しくなっており、大学病院として高度な臨床実践とレベルの高い研究を継続することが困難な状況があります。そこで当 Acute Care Surgery 講座では、重症外傷に対する研究費をご支援いただくため、クラウドファンディングによる資金募集を行いました。株式会社 READYFOR 社のクラウドファンディングにおいて、「生命危機が迫る外傷患者を一人でも多く救う、研究・臨床の継続へ」と題し、1年間に必要とする研究費用の寄付の募集を行いました。本年3月から6月までの約2ヶ月半の間に本研究の趣旨をご理解いただき総額5,693,000円のご支援をいただきました。ご支援頂きました皆様に改めてお礼申し上げます。

当科は誕生してからまだ5年に満たない新生医局で、外部資金の獲得にも大変苦勞をして参りました。しかし、今回、命を落としかねない重症多発外傷の患者さんを一人でも多く救うことにつながる研究をこの島根県で意欲的に行っているということにご理解を頂き、ご支援をいただけたものと思っております。本ご支援を活用し、社会へ還元できる研究を進めて参ります。引き続き当科のご支援をお願い申し上げます。

